

新年おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。昨年3月号では入学試験での感染対策などを編集後記で書いた覚えがありますが、1年近くたった現在、当時はまだのどかだったのだということを思い知らされています。今年度の入試実施は、受験者もそうですが、大学側も決死の覚悟で臨むしかなくなっています。会場での徹底した感染対策は勿論のこと、通常はありえない追試験実施の要請、従来の2倍の広さの会場確保、等々、大学側の負担は並大抵ではありませんし、受験生も感染におびえながら受験準備をし、試験中はずっとマスク着用が義務付けられるなど、大変なストレスにさらされます。本学では、推薦入試は終わりましたが、まだ、週末ごとに5回の入試が残っており、入試担当の私にとってはこれからしばらく素晴らしい週末が続きます。

感染予防については、3密（密閉、密集、密接）を避けることが繰り返し呼びかけられてきました。本来の内容はよいとしても、いつしか「密を避ける」が「大人数を避ける」と同義に使われるようになってしまいました。それによって、3密の中で最も根幹の「密接（近くで会話する）」が想起されにくくなっています。重要なポイントは、とにかく「マスクをしないでしゃべるな」ということにつきます。パチンコ店のように密であっても全員が寡黙で対面しない環境よりも、小人数の食事などでの会話の方がずっとリスクがあります。

大学の教育も様変わりしています。講義はすべてオンラインで実施され、実習は、遠隔も一部取り入れながら、人数制限をして対面で行っています。実習は1人でも感染者がでたらストップになりますので、予定が見通せない状況です。最も気の毒なのは1年生です。入学はしても、殆ど登校もできず、大学生になったという実感を得られないのではないかと思います。

ただ、講義形式について学生にアンケートをとると、遠隔講義は気の毒というだけでは済まされない結果が得られています。対面講義の経験のない1年生は圧倒的に遠隔講義よりも対面講義を望んでいます。これは誰しもが予測する結果です。一方、対面講義を経験してきた2年生以上は、対面講義よりも遠隔講義を望む声の方が多く、これはこれで、教員は複雑な思いをしています。遠隔講義がうまく行ってそうよかったと思う反面、遠隔講義でも代用できそうな対面講義って一体何だったのだろうと考えこんでしまいます。そもそも講義は必要なのか、という議論さえなされるようになっていきます。来年度の講義も、感染対策上止むなし、ということから、遠隔講義を基本に対面講義も取り入れていくことになっていきますが、感染が収まったあとも、こういった新しい形式が取り入れられていく可能性があります。

新型コロナウイルス感染症は、社会の様々な分野でありかたを大きく変えるきっかけになりつつありますが、医学教育も今後、これをきっかけに変貌を遂げるかもしれません。

（土田哲也）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第63巻 第1号 1月号 2021年1月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村 直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813) 0288 ホームページ http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
--	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。